

冊	子	目	録
	落	穂	拾
			い

『国立国会図書館所蔵 日本関係欧文図書目録 昭和51年—61年』

当館は、国内で刊行された図書については納本制度によって網羅的に収集しているが、海外で出版されたものについては、一定の収集方針のもとに選択して収集している。しかしながら、主題が日本に関する図書の場合は例外で、ほぼ網羅的に、特に力を入れて収集に努めている。わが国に限らず、他の諸国に於いても国立図書館は、その国についての文献は網羅的・包括的収集をめざす場合が多い。当館がこれまでに受入れた分については、『国立国会図書館所蔵 日本関係欧文図書目録(支部上野図書館旧蔵分)』(1966 166p.) および『国立国会図書館所蔵 日本関係欧文図書目録 昭和23年—50年』(紀伊國書店 1977 388p.) にそれぞれ約5,000点、7,800点収録されている。当書はこれらに次ぐもので、1976年1月から1986年8月までの10年8カ月間に受入れた約4,700点の図書を収録している。内容は多岐に及んでいるが、これまでのコレクションと若干趣を異にしているのは、社会科学系の図書の占める割合が以前と較べ高くなったこと、近・現代小説の翻訳で、評価が定まった所謂文豪の作品より、むしろ新進気鋭な作家の作品が含まれていることなどである。特筆されるべきは何と言ってもアメリカの学位論文のコレクションであろう。これは、アメリカの UMI 社がマイクロフィルムから電子複写化して製本したもので、当館は1980年頃から5～6年かけておよそ550

点を収集した。中味は広範な分野にわたっているが、科学技術関係の図書が少ないように感ぜられる。本目録に収められているこれらの資料によって、当館の日本関係欧文コレクションは、一段と学術的価値の高いものとなったと言ってよからう。

なお、当目録が1976年1月から1986年8月の間に受入れた図書を収録と謳っているが、この間の刊行の図書とは必ずしも限っていない。例えば、明治中・後期に来日し、日本に骨を埋めたポルトガルの外交官モラエス (Moraes, Wencelau de 1854-1929) の著者の場合、当館では既に準貴重書に指定されている *Dai Nippon*. (Lisboa, Imprensa Nacional, 1897. 16, 302p.) 等10点余を収録している。

目録は機械編纂だったので、これには戸惑うことが多かった。とりわけコンピュータの正確さに関心し、愚直さに呆れ果てたのは索引の箇所であった。書名索引で、冠詞は当然排列無視語なので、これらの語は予め機械に読むなど指示して置けば、それらを無視して排列してくれるのであるが、悲しい哉、主要な言語の冠詞しか思い浮かばない。ルーマニア語の冠詞“O”は、コンピュータは排列無視の指示を受けておりませんでしたとばかり、きちんと読んで排列しているので次の語の綴りのところへコンバートしなければならない。これとは逆に、“Die”はドイツ語の定冠詞なので排列無視の指示を受けている。従って、英文の“Die like the carp!”という図書は“like”のところに座っている。これも“Die”の箇所へ呼んで来なければならない。

かくの如き次第で、当書の刊行は目には青葉の頃を目論んでいたが、いつしか季節は紅葉となってしまった。

(参考課 相島 宏)